

## 第十三章 帰国

帰りのルートは、アンカレジ経由ソウル一泊で羽田着であった（成田は未開港）。アンカレジで給油のために一時着陸した際、二時間程度機外に出た。滑走路から見える山々の雪景色はやはり珍しかった。

ソウルでは一泊したがソウル市内を観光する時間はなく、タクシーの中から建物の写真を撮った程度だった。

こうして、六月七日、無事、帰国となった。

帰国後、東京で二泊、また、K叔父のアパートに泊めてもらった。ヨーロッパで多くの古い建物などを見て感銘を受けた影響か、日本の古い建物や有名な観光地を見たくなくなった。選んだのは浅草の浅草寺である。日本らしさを感じつつ、旅行の延長のようにも覚えた。

そして、新幹線に乗り、六月九日、博多駅に着いた。

駅には到着日をはがきで知らせていた女友達が迎えに来てくれていた。

こうして、今回の私の旅は完全に終わった。



アンカレジ



ソウル



浅草